

□内容

このまとめ資料は、一級建築士設計製図試験対策で直前対策セミナー・コース生用に資料としてまとめたものです。

1. 合格するために必要なことと製図試験のポイント
2. 過去課題にみる合否ポイント、本試験想定イメージ
3. 本年度課題分析、失格項目整理、出題パターン、逃げの一手
4. 最終チェックリスト

1. 合格するために必要なこと

- ① 試験のしくみからみた、合格するための 4 つのポイント
 - ・失格にならないこと 失格者(ランク 4)にならないければ残りの半数が合格する試験。
 - ・大枠をはずさないこと 主条件・ゾーニング(+動線)を守って、完成させる試験。
 - ・常に減点に強い図面/要点をめざすこと 不合格になりにくい、読みオトシのない抜けのない図面/要点。
 - ・そして、完成していること。

- ② そのための考え方として
 - ・合格するのは、問題文の意図を理解して図面化した図面。その理解をさらに要点でアピールする。
 - ・迷う点、あいまいな点、記述があるべきであるのに表現されていない点は全て、合否ポイントである。
 - ・必要なのは、題意を解釈して、理屈として解けていること(論理的整合性)。
 - ・「エスキースで解く」という攻めの部分と、「作図でもれなく描く」「要点で説明する」という守りのイメージを!

- ③ 重要な当日のタイムスケジュール

6 時間半をいかに有効に使うかが勝負の決め手。そのため、時間調整できることは、試験の合格要件である。

 - ・2 時間エスキース → 90 分エスキース：エスキースをまとめるひとつの目安(スケルトンイメージ)
→ 30 分の調整しろ(バッファ)
 - ・1 時間計画の要点 → 1 時間以内でまとめ上げること。
 - ・3 時間製図 → 要求図面等のみを忠実に押さえること。(目標! 最小限図面)
 - ・30 分の見直し → 見直しで 10 点違う。「点を拾いにくい感覚」があるか否か。
設計する視点ではなく、施主としてイチャモン(文句)を付ける視点で図面チェックすべし。

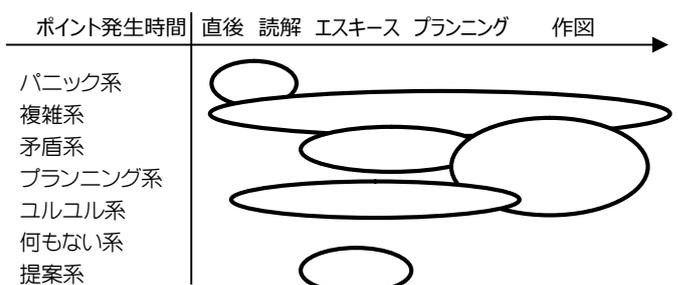
- ④ これから試験日までの残りのまとめ、時間の使い方
 - ・使えるツールを精査し、まとめること。そのために今までの課題をもう一度縦覧する=縦に観ること。
常に課題を 基本+その課題の特殊解 として整理しながら観る、まとめること。
製図試験.com 的に「建築する」とは、「集めて → 分類して → 決定する」プロセス
つまり、「今までの課題を全部集め、各部位ごとにチェックし、いつもと同じ部分と異なる部分を整理し、
使えるようにまとめなおすこと」を「縦に観る」と言っています。
 - ・今から新たな課題は、攻められる状態で無い限りはしない。(混乱するだけの場合が多い→80%のクールダウンへ)

2-1. 過去課題にみる合否ポイント

□イメージしておいていただきたい過去課題 5 つの難度パターン

注意しておきたいのは、難しさが発生する時間帯が異なること、様々な波が 2 度 3 度と訪れるであろうこと。

① 複雑系	平成 15 ・16・20・23・27・29
② 矛盾系	平成 13・14・16・20
③ パニック系	平成 12・13・16・17・20
④ プランニング系	平成 15 ・20・22
⑤ ゆるゆる系	平成 18・21
⑥ 何もない系	平成 19 ・25・ 26 ・ 27 ・ 28
⑦ 提案系	平成 24・29年



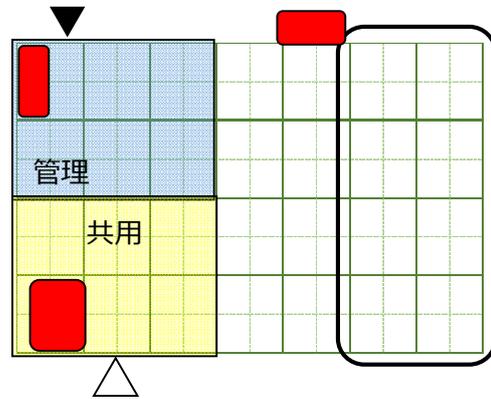
2-2. 想定される本試験イメージ

- ① 解答例がひとつではなく、選択肢が多数ある出題
- ③ h14 とも h20 ともかぶらないような出題
- ⑤ 資格学校があまり手を出していない出題

- ② 動線・ゾーニングの理解がチェックできる出題
 - ④ 7x7 で 6x4 コマではない出題
- この 5 点から想定される本試験イメージを作成しました。

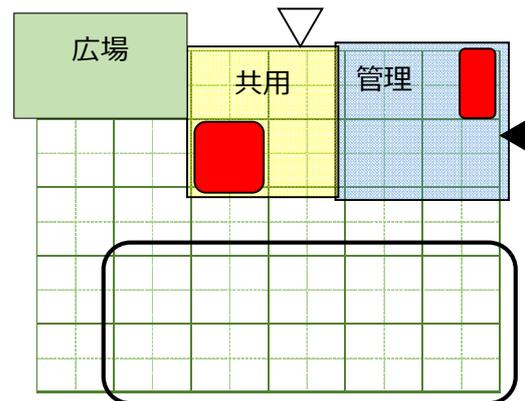
A : 1 階プール縦族 6x7 の 7x4=28 コマ 南入り

- ・40m² 系、6x7 の 28 コマ。
- ・南入り、出迎え型管理部門
- ・共用部が 1 階更衣室に押されて左に動く可能性大
- ・更衣室は 1 階集約でも 1-2 階分散でも可能
- ・機械室も 1 階でも地階でも可能
- ・大空間 2 階に計画可能
- ・上手く計画すると北側への通路も確保可能
- ・コアがプールと逆サイドに寄るので 3 つめの階段可能性あり。
- ・1 階プールか 2 階プールか迷う設定。



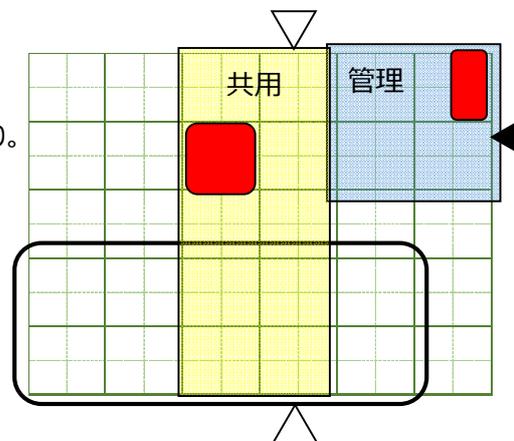
B : 1 階プール横族 7x6 の 6x5-2=28 コマ-広場 北入り

- ・40m² 系、7x6 の 28 コマ
- ・広場が 2 コマ食うため、7x4 型と同じ 28 コマ程度
- ・プール 1 階の場合は、2 階にしたいくらい廊下率が低く出題
- ・1 階プールか 2 階プールか迷う設定。
- ・広場もしくは駐車場でピロティとなる関係性可能性あり。
- ・出題としては複雑系オーソドックスなので、図面がスカスカにならないよう注意
- ・中庭出題の可能性あり。



C : 2 階プール縦族 7x6 の 6x5=30 コマ オールスポーツ部門

- ・2 階にプールが来るとすると、1 階がスカスカになる。
- ・逆に考えると 1 階が何らかの形で埋まるのであれば、2 階プールあり。
- ・外部連携による更衣室、豊かな共用部、機械室系のいずれか。
- ・ゾーニングは、プール部門が 2 階を占領しない形をとる。
- ・つまりスポーツ部門の中にプール部門がある感じ(h28 型)



上記 3 案はプロトタイプであって、予想問題ではなく、これらの情報をミックスした出題を想定しています。

3-1. 本年度課題について（製図試験.com 的課題分析）

本年度課題名 [健康づくりのためのスポーツ施設] について、現時点では、以下の 10 点のポイントが考えられます。

- | | | |
|-------------------|---------------|-----------------|
| ① プール建築計画、構造、設備関連 | ② 外部連携・更衣室攻略 | ③ 敷地読み・プール階数族攻略 |
| ④ 建築法規関連 | ⑤ 構造・基礎選定 | ⑥ パッシブデザイン・設備関連 |
| ⑦ 計画の要点 | ⑧ スポーツ施設であること | ⑨ 各要求室適切ゾーニング |
| ⑩ 初歩的ミス・その他 | | |

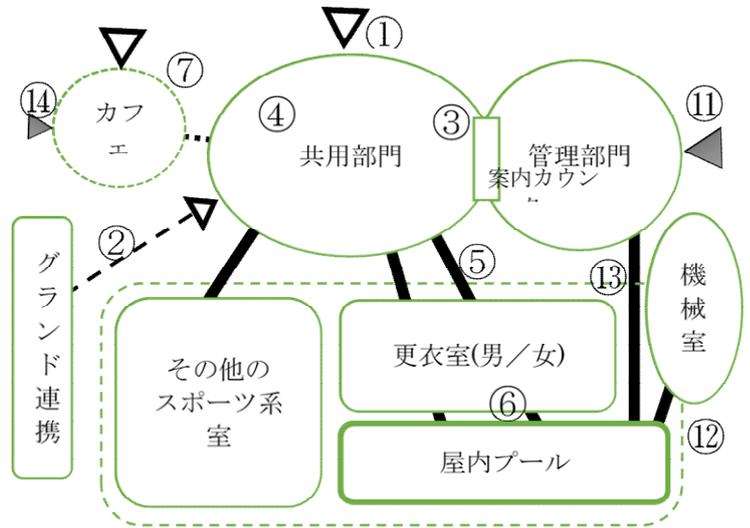
□ スポーツ施設の構成

■ 利用者動線

- ① 利用者がわかりやすい位置にエントランスホール入口
- ② グランド連携などがある場合は、管理部門から見える位置にグランドアプローチ
- ③ チケット購入・利用案内は管理部門の案内カウンターへ
- ④ 待合、売店、セミナー室、共用できる部分に利用者が使う機能を付加
- ⑤ 更衣室で更衣。上下足注意。更衣室はスポーツ系室と兼ねる可能性あり。
- ⑥ DRY-WETゾーンでプールへ
- ⑦ カフェは付加機能。外部出入口を設ける場合あり。

■ サービス動線

- ⑪ 利用者と管理者動線は完全分離
- ⑫ プールのろ過関連は専用機械室が必要
- ⑬ プールと管理部門はつながっている場合あり。
- ⑭ カフェのサービス動線はカフェの規模が大きい場合には必要



① プール建築計画、構造、設備関連

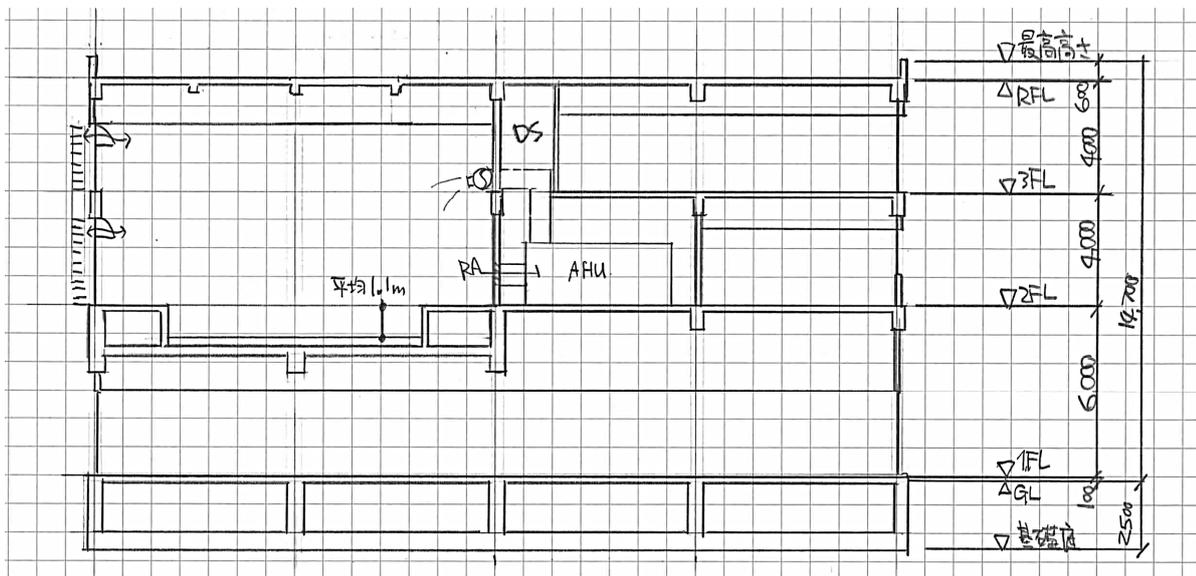
プールには 7 つの動線ゾーニングあり。

- ① ドライ・ウエット、② 更衣室、③ 課金、④ 上下足、⑤ 車いす、⑥ 見学者、⑦ 二方向

プールサイズについては、プールの大きさからスパンを割り出すこと、面積条件とプールサイズからスパンを割り出せること

構造については 3 点、特定天井、PC 屋根（S でガラス屋根）、プール加重を支える 2 重のラーメン

- 屋根 = PC による構造：プール上部の架構は無柱空間とするため、14m のロングスパンのプレストレストコンクリート梁を採用し、柱は他の柱より配筋量を増やし 800×800 とした。
- 床 = ラーメンを別途設定 + 部材アップ：プール下部にラーメン架構を設け、大梁は 600×1100、小梁はスラブを 3 等分し 400×700 と配置することで、プールの重量を安全に支持する計画とした。
- 特定天井：特定天井であることから、周囲の壁等との間に隙間は取らず、また斜材は設けずに天井の地震力を周囲の壁等で負担することにより損傷や脱落を防止する仕様とした。



設備については

- ①空調は、塩素 + 高温多湿 + 大空間対策 → 冬期対策、負圧、単一ダクト or 外調機
- ②ろ過機械室
- ③給湯：ガスボイラー（空調熱源にも利用可）、チラー（化石燃料不利用）

方式	単一ダクト方式	外調機 + 排風機
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・必要換気量の大きな大空間に適する。 ・熱源装置、空調機の設置場及びDSが必要。 ・補助暖房 → 温水床暖、太陽熱温水利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した温湿度や空気清浄度の管理が可能。 ・塩素や湿度が流出しないよう負圧（第1種換気） ・パッシブはヒーティング中心で断熱、太陽光利用
熱源	・HPチラーによる冷温水もしくはプール給湯用ガスボイラー使用（暖房のみ）	
長所	・顕熱交換器の還気で廃熱小。	・排風機全量排気で結露・腐食防止可。+ シンプル。
短所	・塩素腐食に塩ビコーティング必初期コスト高。	・全量排気 = 廃熱が多く、ランニングコスト高。

②外部アプローチ連携・更衣室攻略

今回のスポーツ施設は、施設外運動グランドとの連携（更衣室、休憩ラウンジ、レストラン等）があり1階がそういった共用部が占めるのか、そういう連携はなく単独でスポーツ施設として成立するので大幅にその位置づけが変わる。さらにプールとその他プール以外が分かれるのかまとめられるのかという要因があるので読解時に注意が必要。

更衣室は、着替えてから階下に降りないという前提で考えると次の6パターンとなる。

更衣室	まとめ型	h14型	外部連携	プール1F	プール2F	外部連携	備考
3階	↑	↑	↑	↑	3その他	3その他	
2階	↑	2	2内部	2その他	2プール	2プール	
1階	1	共用部	1外部	1プール	共用部	1外部	

更衣室の大きさは、全スポーツ部門の約 1/3-1/4 程度

③敷地読み・プール階数族攻略

敷地から 7x7、6x7、7x6 の検討が必要。かつプールを縦に配置するのか、横に配置するのかで大きく攻め方が異なる。プールが納まる長さなのであれば、プールは長辺方向に対して短辺方向（縦）に配置した方が残りのゾーニング形状がよい。そのため、最初にプールを縦イメージで考える派閥をプール縦族と呼び、プールを横に置く派閥をプール横族と名付けた。特に 40m² 系の 7x4 族と 6x5 族の戦いになるのではないかと予測している。ただし、どちらがよいではなく、どちらの検討からスタートするかということで留意すべし。

スパン決定要因は①敷地読み、②プールサイズ、③要求室 50/40 系の 3 点で決定し、不明な場合は、得意な方で行う。

左図(プール縦族)

プール縦族では、残った形が 4x4 コマになるという特徴があります。ただしプールは最大 4 スパンだと 28m で 25m プールは不可能です。スパン調整 8m を縦に入れる可能性もしくは、6mx5 を考える必要があります。

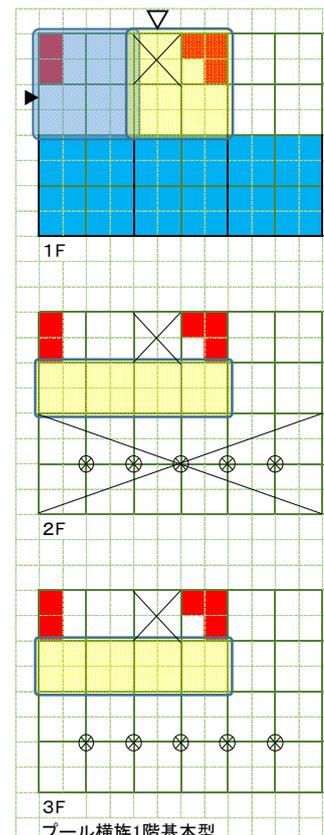
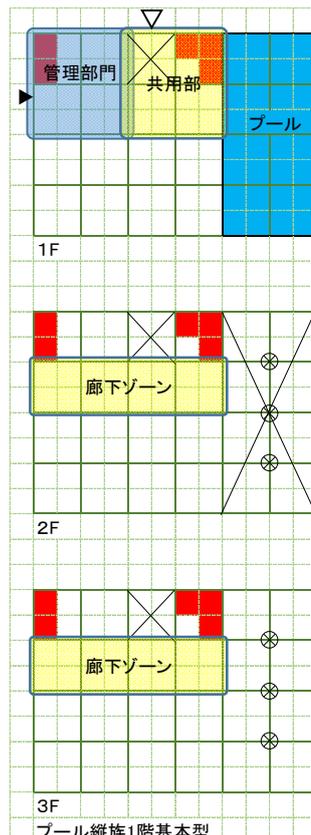
右図 (プール横族)

25m 以外にプールがある場合等は、迷わずプール横族という選択があります。プール横で計画すると

- ・残った 16 コマなりがあまりきれいでない
- ・更衣室空間が足りない

等の問題がある一方、プールに接する長さが長いので、計画しやすいという利点もあります。

どちらがよいではなく、どちらも使いこなせることが重要になります。



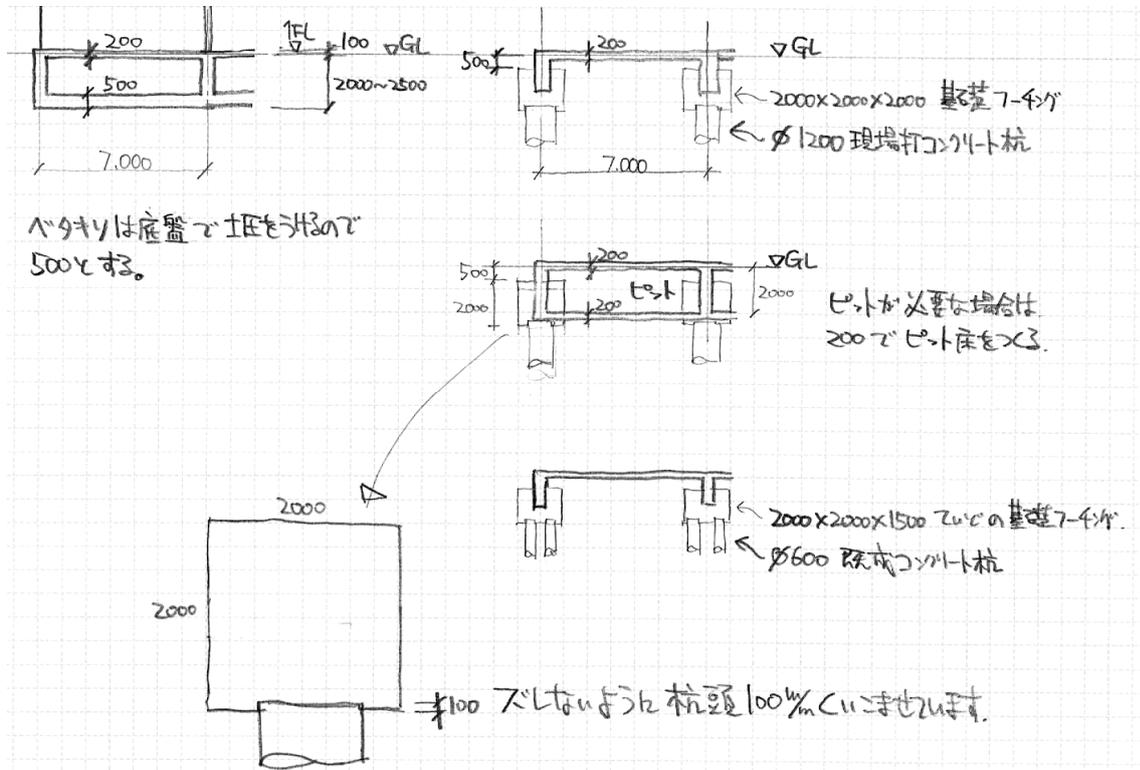
④ 建築法規関連

建築法規については、注釈で掲げられた4点

- ① 延焼のおそれのある部分の位置及び防火設備 公園、水路除く敷地境界線、道路中心からの離隔距離で防火設備
- ② 防火区画（面積区画、竪穴区画）面積区画＝特定防火設備。防火区画に接する外壁等に注意。（有効900以上）
- ③ 二方向避難 無窓居室（40/20m）注意。通常60/30m
- ④ 敷地内通路 敷地内の避難上必要な通路 出入口から道路までの間1.5m確保。

⑤ 構造・基礎選定

基礎については、直接基礎（原則ベタ基礎）と杭基礎があります。支持地盤がGL-3m程度なら浅層改良、3mから10mなら柱状改良の上ベタ基礎とし、10m以上なら杭基礎とします。斜面処理については、上記③の通りですが、地中梁底が、支持地盤から出ないように根入れ深さには注意してください。片持ち梁、大空間については、ステップエスキースのP99を参考にしてください。



⑥ パッシブデザイン・設備関連

大きくは太陽光、太陽熱、通風というキーワードとそれに対して、夏期、冬期、季節のよい時期においてどのような効果を発揮するのかをまとめておけばよいです。加えて、図示できるようにしておいてください。また**プール室は常夏。冬期対策が重要**

	クーリング（夏期）	ヒーティング（冬期）	プール対策
太陽光	日射は遮り、光は入れる	日射も光も取り入れる	ルーバー、ライトシェルフ、庇
太陽熱	日射・熱共に遮る 室内に熱を入れない逃がさない	日射は取り入れる 室内の熱を逃がさない	太陽熱パネル 断熱、ペアガラス、屋上緑化
通風	アースチューブ 井水による同方法	アースチューブ 井水による同方法	夏期の通風：ハイサイドライト、トップライト（高窓、天窗）

全体空調：個別空調となるので、空冷 HP パッケージ方式（天井カセット型・天井隠ぺいダクト接続型・床置きダクト接続型）が基準となります。換気は全熱交換器を使います。加えて、個別空調にファンコイルユニット方式を用いることもあります。

給水：受水槽を使ったポンプ直送方式

給湯：ガスボイラー＋貯湯槽（ガスボイラー室）、もしくは空冷 HP 方式の給湯器＋貯湯槽（屋外）

⑦計画の要点対策

・暗記集は、<http://seizushiken.com/DL30/h30anki01.pdf>

■知っている知識以上を計画の要点が求めてきたら。

建築計画原則に基づくこと。利用者が使いやすく、管理者が管理しやすく、というルールを念頭に置いて記述すること。

具体的に書けなくても、その2点については、理由として書けるはず。また、知っている知識を全て動員することは当たり前だが、知らないことまで知っているように書くと、かえって墓穴を掘る可能性があるので注意。

さらにわからないからといって、絶対に空欄にしないこと。

<心がけとして>

本試験では、今まで想定もしていなかったことが、何点か含まれている。

初めての記述、意味不明な記述には十分注意しつつ、時間内に判断することが求められている。

気をつけるべきは、そのことで不用意に時間を取られすぎないこと。

本試験は時間との勝負であることを忘れないこと。

あなたがわからないことについては、他の受験生もわからない可能性が高い。とするとそれではあまり差が付かず、結局、基本が崩れた方が、減点が大きくなり不合格になる。難しいと感じる問題ほど、基本を大切にしよう。

⑧スポーツ施設であること

設計条件にうたわれた「健康づくりのためのスポーツ施設」になっている必要がある。

⑨各要求室適切ゾーニング

本来、各部門を適切にゾーニングして、明快な動線計画とするが、部門を渡る要求室が出題される可能性が高い。

例えば要点では、

「スポーツ部門は1-2階に、プール部門は3階にゾーニングし、明快に動線を

分離した。ただしセミナー室については、両部門で利用するため、3階に計画した」

というような説明が必要になるはず。また更衣室、セミナー室、健康相談室、

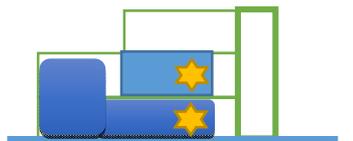
レストラン、休憩ラウンジあたりがそういった例外諸室になる可能性が高いと考えらる。

右図は、上から

(A) 1階プール部門、EVから先が2-3階のスポーツ部門 (h14、h28、h29型)

(B) EVは共用部で、1階プール部門、2階スポーツ部門、3階子ども〇〇部門

(C) EVを含め全部がスポーツ部門でプール部門が一部2階にゾーニング(h24型)



⑩初歩的ミス・その他

今年の添削を俯瞰する限り気がついたことも含めて。全体的に初歩的なミスで減点を受けている答案が非常に多かったです。

1) 不一致：配置図-平面図不一致、平面不一致、平断不一致、ドライエリア、コア、吹抜け、屋根・・・。

2) 室抜け：階に便所なし、機械関連室抜け、地下1階抜け(階段、ドライエリア、範囲、煙突他)

3) 面積ミス：ピロティ面積ミス、吹抜け引き忘れ、階段吹抜け忘れ → 必ず違う方法で検算すること

・プールは1階(もしくは2階)スタート。大空間の配置は建物形状を考えるならば2階から考える。

・動線計画・ゾーニング計画は、「建築計画の5原則」で考えて整理しておきましょう。

①わかりやすく、管理しやすいこと ②わかりやすい=動線が短い、混ぜない ③管理しやすい=目視・死角が少ない

④量、頻度、不特定度が高い、多いものをより優先する ⑤建築形状、各階バランスに配慮

exp：エントランスホール>ラウンジ>レストラン>上下足・課金>更衣室>スポーツ部門系

・用紙に入らないエスキースをして、作図で苦戦する方が散見されます。レイアウトの確認を事前に行ってください。

・問題が平易であるのにエスキースに時間をかけすぎると、見直し時間で差がついてしまいます。

・1階のプランを大切にせず、メインコアサブコアの配置が、2階、地下1階で乱れている方が多い。

・面積の読み間違いが多い。Exp：ロッカー室一男女計50m²を各々50m²とした。

もしもの時について。

あまり文字にして残したくないのですが、とっさのトラブルの際の手段として、持っておくと護身用にはなるかな、と。

1) エスキースで面積オーバーの際 (今年は特に、各 \circ m 2 、計 \circ \circ m 2 での間違いが多い)

- ・平屋があれば、その部分からスパンを短くする
- ・共用部だけのスパンがあればそのスパンを短くする
- ・入玄関にして、風除室前を減ずる
- ・ピロティできる部分はセットバックする (例え 1m でも)
- ・ $\pm 10\%$ の範囲で要求室を小さくする
- ・要求されていない室をやめる (特に機械室・電気室・受水槽室・管理諸室)
- ・要求室のうち、50m 2 以上のものは欠落すると失格と置いて下さい。

2) 建ぺい率に掛かることを直前に発見した場合

- ・庇は 1m 以内にする
- ・平屋があれば、その部分からスパンを短くする
- ・共用部だけのスパンがあればそのスパンを短くする

3) 二方向避難ができてない室を発見した場合

- ・屋外階段を設ける。ただし建ぺい率には注意。(建ぺい率アウトの方がペナルティは重い)
- ・複数ある場合は、バルコニーをまわし (シャンプーハットのように)、バルコニーの 1ヶ所に屋外階段を設ける。二方向避難重複距離はそれでカバーされる。室経路は不可、階段は 4つ (5つ) 以上の階段も減点大。

4) エスキースが 2 時間で納まらない場合

- ・あなただけができないのではなく、まわりもできてない可能性があることを認識。つまり難しいということ
- ・2 時間でエスキースを終えるためには、1 時間 30 分の時点でまとまるかまとまらないかを判断する必要アリ。
- ・大空間、共用、管理が納まっていて、スパン及び面積がほぼ確定しているなら、とっとと切り上げる。
- ・便所や EV が納まらないこと、要求室が納まらないことで時間を使いすぎるのはもったいない。時間優先で、1) の方法をとってでも、進めることが重要。
- ・EV は最悪二方向出入口 EV を利用しても OK。
- ・室の比 1 : 2 は無視してでもまとめること

5) 断面図で切断位置がうまくいかない場合

- ・「Z 斬り！」を使って下さい。ここで表現として重要なのは、必ず断面図に一点鎖線が入ること。一点鎖線を描かずに省略とかで描くと失格になる。

6) 計画の要点でどうしても分からない部分がある場合

- ・時間を取られても仕方ないので、問題文をそのまま写し、その上で、「最適な方法となるよう検討した。」と書く。そのことで時間が取られることの方が危険。

7) ダメだとしても未完を避けること

室が納まらなくても、建ぺい率や面積などの数字がオーバーしていない限りは、未完でない限り、土俵には残ります。

フリーハンドでもいいので完成させること。諦めたらそこで終わりです。

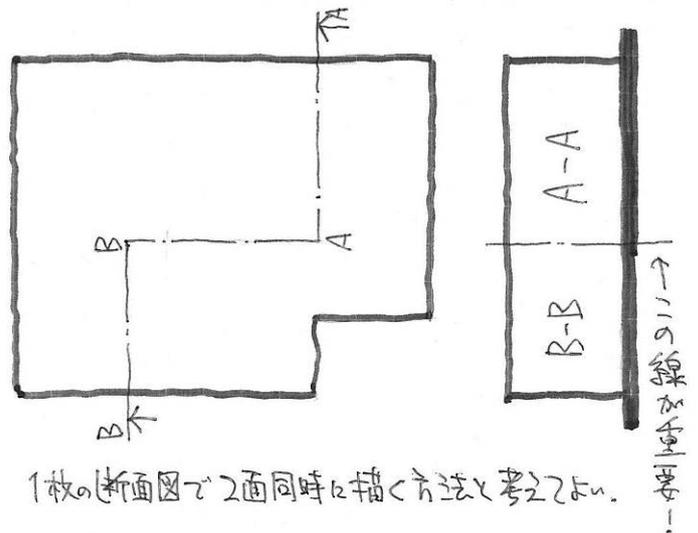
凡例を押えれば、単線プランでも過去には合格しています。開口部と壁と見え掛かりの線さえ描き分けていたら、単線でも土俵にのります。

8) 意外なようですが・・・

逃げるときも、心を入れて描く。これは重要です。逃げている気持ちで描くといいいものにならない。

どうせなら開き直って、正々堂々、心を入れて描くことです。特に計画の要点。

採点する相手もまた人間なので、焦って、逃げて、描き殴った図面と、正々堂々と開き直りつつ心を入れていないに描いた図面なら、どちらに軍配が上がるかは明らかでしょう。



はじめに

- 体調を万全にしてのぞむ。
- 問題文を読む前に、いつも忘れそうなことを問題文の欄外に書くこと。
- 難しさを測ること-難しさに応じて作戦を変更すること。 -難しさによってタイムスケジュールを変える。
- 知らないことで自分を見失わないこと。自分のパターンに持ち込んで勝負する。
- 今までやったことのないことは基本的にしないこと。
- 問題文が答え。全て載っている。解答用紙が答え。ココにしか描けない内容しか出題できない。
- パレートの法則：最初の20%で全体の80%が決まる。
- この施設が「健康づくりのためのスポーツ施設」であることを忘れないこと
- 自身の合格を確信し、最後の最後まで絶対諦めないこと。

条件読解

- 設計条件は絶対遵守。
 - 1) 「健康づくりのためのスポーツ施設」であることを忘れないこと。
 - 2) 全体構成に影響を与える6点
 - ①敷地条件 ②敷地形状(7x7、6x7、7x6、他) ③要求室(50/40) ④プール室の大きさ・設置階指定
 - ⑤更衣室の数、面積 ⑥大空間、大きな屋外施設(広場、屋上庭園、駐車場)
 からイメージを柔らかく作ること。
- 見慣れた言葉は味方として。見慣れない言葉に最重点注意。
- 設備系の指定には注意 受水槽、キュービクル、空調方式等。特にEVの部門・用途設定は、間違えると失格事項。

要求図書

- 配置図、平面図の特記事項を絶対逃さない。
- 特に目新しい表記、見慣れない指示事項には最大限注意。面積記入・造作記入。切断位置なども注意しよう。
- 断面図は、切る場所のチェック・切る方向のチェック→用紙に書き込んでおくこと。
- 計画の要点/面積表はできるだけ最初を書くこと。(最後は手が震える)面積は違う方法で検算を重ねること。

敷地条件

- 1) 敷地・計画エリア形状 2) 接道条件 3) 隣地条件 4) レベル差他 の4つの視点でチェックする。
- まず敷地形状の確認 (6x7,7x6,7x7のいずれかで、外構空き確保、敷地境界2mの空き可能か否か)
 - アプローチ道路の確認。グランド、スポーツ公園等からのサブアプローチはさらに確認!
 - 周辺敷地の優先順位の確認。眺望は指定がない限り配慮しなくてよい。
 - 道路をはさんでの環境はあまり重視しなくてよい。
 - 隣接敷地の建物形状まで出題されることもある(H16,H7,H21)
 - 建蔽率70%以下の場合、大きな広場があるか、建蔽率によってコマ数アウト、がでてくるので要注意。
 - 基礎・地盤支持層等はこの部分に記載してあるので注意すること。

建築物

- その他、「ピロティ、バルコニー、塔屋、屋外階段」の4項目以外に算入しない面積(屋外テラス等)を書き出しておくこと。
- h29型「ピロティ等の屋内的用途の面積算入」には最大限注意。ピロティについては平面図に面積範囲を記入すること。
- アプローチ指定があるのはたいていココなので、細心のチェック。

屋外施設

- プラザ・広場・オープンスペース等はひさしやピロティ部分を含むかとアプローチに使ってよいか必ずチェック。
- 集会機能が要求される場合は、1:1か1:2が原則。それ以外は1:2をはずしてよい。
- 駐輪場10台(5mx4m)はパーツを準備しておこう。駐輪場あなどるべからず。
- h29型「屋外施設は面積算入しないはナシ」かどうか確認すべし。

法規

- 防火区画（異種用途区画は不要）：
 - ・面積1500m²ごとにただ単に区画する1500m²面積区画
 - ・3層吹抜けは1階や地下1階も縦穴区画をする
- 防煙区画 防煙垂れ壁が500m²ごとに必要
- 無窓室 100m²以下の事務室無窓なら「建設省告示1436号より仕上下地ともに不燃材料とし排煙免除」と記載。

要求室

- 面積、室数、諸条件を、間違えたり、忘れてたりすると即減点大。
- 大空間は2階スタート。動線に注意すること。
- 柱の梁受け＝構造不安定として絶対に禁止。
- 集会機能が求められる場合、1：2原則
- コーナー・ロビー・ラウンジ・サロン・ホワイエは室として求められない限り、原則室とせずオープンとする。

特に難しい言葉について / 仕掛けてくるだろうポイント

- 和製英語のような専門用語に関しては、とにかくびびらないこと。
 - ＝知っている空間に置き換える。体験したことのない空間は出題されない。
 - ギャラリー：ガラス屋根の回廊、吹き抜け廊下状の空間など。
- 外部アプローチが決めにくい。公園・グランドへのアクセス。駐車場多い、駐輪場多いのでピロティ。勾配屋根。
- 内部1-3階。光庭、内部吹抜け。部門の独立と共有。
- 観たことがない要求室。全く考えてなかった何かが盛り込まれる可能性も十分ある。

その他

- 計画の要点は、1問でも白紙は失格。
- 難しいと思う計画の要点の場合、少なくともそこだけ残して他を完全に仕上げ、時間を不用意に取られないこと。
- 難しいときは描き込み量勝負。簡単なときは丁寧な描き込みの質勝負。
- 自分がパニックになるときは回りも実はパニックになっていることを忘れるべからず。
- 上下階不一致を防ぐために ①エスキースは縦並びに描くこと。②チェックで通り芯を入れること（たかだか1分程度）
 - ③両手を使って、位置を図面上で確認すること

最後に

■試験とは、究極、時間との勝負です。
力を出し切ること、ミスは極力少なくすれば、3時間で図面が描ける人は絶対に合格できます。
でも力が出し切れず、ミスをするのが人間という生き物です。
力を出し切るには、平常心。深呼吸すること。これは80%の力で臨み、20%の余力を残して戦うということと同義です。
ミスをなくすことはできないので、チェックする時間をつくること。
これだけで合格率は10%上がることを最後まで忘れずに。

健闘を祈る。祈合格。

平成30年10月9日

製図試験.com代表 山口 達也